

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			指導訓練室は 69.34 m ² あり、指定基準に定められる 1 人当たり 2.47 m ² をゆうに超える広さがあり、個別学習、運動その他活動に合わせた十分なスペースを確保できている。別室として静養・相談室もある。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			基準以上配置しているが、十分な支援を行うために加配で職員配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			玄関のみ段差があるが、他はバリアフリーとなっている。
業務改善	4	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			毎日のミーティングにて全日の振り返りと、改善策の話し合い、月 1 回の全職員参加の職員会議にて質の向上を図る話し合いをしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			評価表より見える課題に対し業務改善および保護者への理解促進にもつなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページ上で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	今年度はまだ実施できていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎日のミーティングや月 1 回の全職員参加の職員会議にて機会をもっている。また階層別研修や持ち回りで外部研修も受講している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者からの情報、所属する学校および通っていた園等とも連携し、計画作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			行っている。

	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			同じテーマのプログラムであっても質の向上を図りブラッシュアップしたりバリエーションも多く持ち、子どもたちの反応を見ながら、楽しさと自信がつくような内容に工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日、休日、長期休みの気分の切り替えが利用時でもできるよう活動パターンも分けて支援している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			毎回、個別活動を終わってから集団活動の流れで支援している中で、個々の課題を見出し計画に反映している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			平日の午前中は出勤職員でミーティングを行い、当日の目標を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			記録記入の際にすり合わせしており、共有化に努めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			モニタリングを含め支援の質の向上につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			支援の振り返りや今後の課題について保護者とも確認し、必要であれば支援計画の見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			ガイドラインに沿って支援するよう務めている。
関係機関や保護者との連	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			サービス担当者会議等には、管理者と児童発達支援管理責任者を中心に参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			学校や保育所・幼稚園、地域の専門機関との情報共有や相談、報告を行い、適切な支援を行えるよう努めている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等			○	現体制では医療的ケアが提供できないため受け入れできないが、医療的ケア児等

携		と連絡体制を整えているか			支援者養成研修などは受講している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		全ての子どもではないが、園等の職員が当時の状態を把握している場合は、共有及び相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		今のところケースはないが、今後そのような状況になったら共有に努めたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		対応の難しいケースなど、互いに相談や助言をもらえるよう連携している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	特定の団体に属している子どもたちとの連携は図れていないが、普段から地域の公共の場で関わっている。また家族会で利用者の兄妹とも楽しく関わられる機会を設けている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		自立支援協議会への参加、障がい児を抱える親の会等への研修会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		毎利用後の様子のフィードバックや記録を提供し、共通理解に努めている。また、個別に面談の時間を設け、家庭での対応方法についてのアドバイスや状況確認等に努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	全ての方に十分行っているとまでは言えないが、事業所での取り組みを伝達したり、家庭でも共通した対応ができるように努めたり、関係する研修等を案内したり、職員も参加、勉強に努めている。今後はより専門的な支援ができるように努めたい。
	保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		送迎時や電話・メールでも気軽に相談しやすいようにしており、適切に対応している。
32		父母の会の活動を支援したり、保	○		保護者だけではなく、祖父母や利用者の

責 任		護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか				兄弟も楽しく参加できる家族会を開催している。また、よく似た悩みを持たれている保護者を対象に、テーマを定めた家族会も開催し、保護者同士の関係や職員との信頼できる関係づくりに努めている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情相談体制の説明しており、都度適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			会報の発行はできていないが、イベントの際には予め周知した上でやっている。また、当日利用者には改めてメールや書面にて活動内容を連絡したり、プライバシーに配慮した上でHP等で活動内容の動画や写真を配信している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			プライバシー性が非常に高い事業内容であることから、従業員には誓約書やマニュアルの理解を求め、保護者にも他児等の口外は控えてもらうように説明している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			情報はできる限り丁寧に詳しく分かるように配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			日常的に見学や参加も募っており、開かれた運営に努めている。また行事前には案内したりお裾分けをしたりしている。また、長期休みには地域貢献活動として利用者と事業所の前通りの清掃活動も行ったっている。
	非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			2～3 か月に 1 回以上の訓練を行っている。内、事前通知なく抜き打ち訓練も行ったりと、日ごろから子どもたちともいつでも行動できる災害時の確認を行っている。

40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			毎月の職員会においても勉強会を開いている。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束マニュアルにて組織として確認している。計画書に反映している該当者はいない。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			契約時にも聞き取りし、食以外のアレルギーに関してもアレルゲンの除去を徹底している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			行っている。

令和元年度 児童発達支援評価表 <事業者評価>

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			指導訓練室は 69.34 m ² あり、指定基準に定められる 1 人当たり 2.47 m ² をゆうに超える広さがあり、個別学習、運動その他活動に合わせた十分なスペースを確保できている。別室として静養・相談室もある。
2	職員の配置数は適切であるか	○			基準以上配置しているが、十分な支援を行うために加配で職員配置している。
3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			玄関のみ段差があるが、他はバリアフリーとなっている。
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			日々の清掃および消毒は必ず行っており、誰もが心地よく過ごせるよう努めている。また整理整頓もしっかりし、必要な時に必要な物を出すようにしている。
5	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			毎日のミーティングにて全日の振り返りと、改善策の話し合い、月 1 回の全職員参加の職員会議にて質の向上を図る話し合いをしている。
6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			評価表より見える課題に対し業務改善および保護者への理解促進にもつなげている。
7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページ上で公開している。
8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	今年度はまだ実施できていない。
9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎日のミーティングや月 1 回の全職員参加の職員会議にて機会をもっている。また、階層別研修や持ち回りで外部研修

					も受講している。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			保護者からの情報、所属する園等とも連携し、計画作成している。
11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			使用している。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			ガイドラインに沿って支援するよう務めている。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			常に個別の支援目標を意識し、行っている。
14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			行っている。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			同じテーマのプログラムであっても質の向上を図りブラッシュアップしたりバリエーションも多く持ち、子どもたちの反応を見ながら、楽しさと自信がつくような内容に工夫している。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			毎回、個別活動を終わってから集団活動の流れで支援している中で、個々の課題を見出し計画に反映させている。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			平日の午前中は出勤職員でミーティングを行い、当日の目標を確認している。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			記録記入の際にすり合わせしており、共有化に努めている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			モニタリングを含め支援の質の向上につなげている。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判	○			支援の振り返りや今後の課題について保護者と確認し、必要であれば支援計画の

		断しているか			見直しを行っている。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		サービス担当者会議等には、管理者と児童発達支援管理責任者を中心に参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		個別で必要と思われる場合は、関係機関と連携している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○	現体制では医療的ケアが提供できないため受け入れできないが、医療的ケア児等支援者養成研修などは受講している。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		○	同上
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		小学校入学の際および入学後に学校の担任等と情報共有及び相互理解に努めている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		○	特定の団体に属している子どもたちとの連携は図れていないが、普段から地域の公共の場で関わっている。また家族会で利用者の兄妹とも楽しく関われる機会を設けている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		自立支援協議会への参加、障がい児を抱える親の会等への研修会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題	○		毎利用後の様子のフィードバックや記録を提供し、共通理解に努めている。また、

		について共通理解を持っているか				個別に面談の時間を設け、家庭での対応方法についてのアドバイスや状況確認等に努めている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか		○		全ての方に十分行っているとまでは言えないが、事業所での取り組みを伝達したり、家庭でも共通した対応ができるように努めたり、関係する研修等を案内したり、職員も参加、勉強に努めている。今後はより専門的な支援ができるように努めたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時にしっかり説明している。また都度の質問にも丁寧に対応している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			保護者に時間を作って来所いただき、丁寧に説明し同意を得るようにしている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			送迎時や電話・メールでも気軽に相談しやすいようにしており、適切に対応している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者だけではなく、祖父母や利用者の兄弟も楽しく参加できる家族会を開催している。また、よく似た悩みを持たれている保護者を対象に、テーマを定めた家族会も開催し、保護者同士の関係や職員との信頼できる関係づくりに努めている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情相談体制の説明しており、都度適切に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			会報の発行はできていないが、イベントの際には予め周知した上でやっている。また、当日利用者には改めてメールや書面にて活動内容を連絡したり、プライバシーに配慮した上で HP 等で活動内容の動画や写真を配信している。

38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			プライバシー性が非常に高い事業内容であることから、従業員には誓約書やマニュアルの理解を求め、保護者にも他児等の口外は控えてもらうように説明している。
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			情報はできる限り丁寧に詳しく分かるように配慮している。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			日常的に見学や参加も募っており、開かれた運営に努めている。また行事前には案内したりお裾分けをしたりしている。また、長期休みには地域貢献活動として利用者と事業所の前通りの清掃活動も行ったりしている。
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			行っている。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			2～3 か月に 1 回以上の訓練を行っている。内、事前通知なく抜き打ち訓練も行ったりと、日ごろから子どもたちともいつでも行動できる災害時の確認を行っている。
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			十分に把握・確認できるよう努めている。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			契約時にも聞き取りし、食以外のアレルギーに関してもアレルゲンの除去を徹底している。
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			行っている。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			職員会においても勉強会を開いている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			身体拘束マニュアルにて組織として確認している。計画書に反映している該当者はいない。